

「石西礁湖自然再生協議会」運営事務局 御中

【FAX】098-863-7672

【E-Mail】okironc@coremoc.go.jp

## 「意見・提案シート」

氏名	宮本 育昌（事務局長）
団体・法人等名	コーラル・ネットワーク
<p>会議に欠席する方で、議題に関して意見や提案のある方は、本シートにより、運営事務局に対して事前に意見等を提出することができます。</p> <p>1. 全体構想の「分野別取り組みの例 / 5. 調査研究 / モニタリング調査の実施・協力 / 各種モニタリング調査の実施」の中に、リーフチェックが例として挙げられています。しかしながら、資料に掲載されているのはそれだけなので、自然再生協議会の中でリーフチェックがどのように位置づけられているか、よくわかりません。</p> <p>これまで、リーフチェックは、コーラル・ネットワーク及び地元のダイビングショップが主体となって進めてきました。協議会に参加したことで、リーフチェックがより加速することを期待しています。</p> <p>そこで、協議会としてリーフチェックに期待されていることは何か、逆にリーフチェック実施に際して協議会に期待できることは何か、調査の実施主体と協議会の関係、調査結果の共有・活用・フードバックにおける協議会の役割、などについて明確にしたいと思います。</p> <p>これらの不明点について、事務局・協議会メンバーの皆様の具体的な考えをお聞かせください。</p> <p>2. 「（仮称）石西礁湖自然再生基金」は赤土対策の一部になっています。しかしながら、サンゴ礁を悪化させている原因には赤土だけでなく、生活排水による水質汚染等もあると考えます。そのため、基金がカバーする範囲をより幅広くし、生活排水対策等の諸問題への対策や調査研究・教育普及にも使えるようにしたほうが、効果的にサンゴ礁の保全が進められると考えます。</p> <p>この点について、事務局・協議会メンバーの皆様の具体的な考えをお聞かせください。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>	

「石西礁湖自然再生協議会」運営事務局 御中

【FAX】098-863-7672

【E-Mail】okironc@coremoc.go.jp

## 「意見・提案シート」

氏名	山本 拓良
団体・法人等名	(株)沖縄環境保全研究所
<p>会議に欠席する方で、議題に関して意見や提案のある方は、本シートにより、運営事務局に対して事前に意見等を提出することができます。</p> <p>1. 「第4章 (3)展開すべき取り組み」について 記述内容が1~5まで書かれておりますが、「6.取り組みへの支援策の検討」を記述して欲しいと思います。 取り組み内容を実行に移す場合は、当然ながら金銭的なバックアップが必要かと思えます。 その方法が記述していなければ、どの協議委員も取り組みの責任者には成り難いと思えます。 例えば、オニヒトデの駆除を行う際に、ボランティアの方々が参加して下さったとしても、</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 駆除したオニヒトデを破棄するための資金はどこが捻出するか？</li><li>・ 船の燃料代はどうするか？</li><li>・ 潜水タンクの充填費はどうするか？</li></ul> <p>などの金銭的な問題が多々発生することが予想されるため、実施主体への金銭的な支援について考える必要があるかと思えます。 具体的には、政府の離島振興策からお金を捻出できないかを検討したり、県内の他の島で行われている環境税の導入が石垣島でも可能かどうか等を検討して頂きたいと思えます。</p> <p>問題的には、非常に難しいことと思われませんが、この問題が解消されれば、取り組みが実現する可能性が高まると思えますので、ご検討下さいますよう、お願い申し上げます。</p>	

「石西礁湖自然再生協議会」運営事務局 御中

【FAX】098-863-7672

【E-Mail】okironc@coremoc.go.jp

## 「意見・提案シート」

氏名	大野 寿一
団体・法人等名	
<p>会議に欠席する方で、議題に関して意見や提案のある方は、本シートにより、運営事務局に対して事前に意見等を提出することができます。</p> <p>第1章 石西礁湖自然再生の取り組みに至る背景と経緯 (3)石西礁湖のサンゴ礁生態系の危機の現状 3)関連する生態系の現状とその変換 (P11)の記載内容 特に、赤土流出で危惧されている小浜島の西側のヨナラ水道に面する位置に、多くの「マングローブ」の群生が見られます。この案件についても取り上げても良いのではと思います。 「黒島」後には是非、エクスカージョンされてはいかがでしょうか？ 近年、群生が多くなっています。</p> <p>第4章 石西礁湖自然再生の基本的考え方 (3)展開すべき取り組み 4.普及啓発 (P43)の記載内容 台風襲来後に台風被害についての市街地等状況が撮影されていますが、海上保安庁と連携して赤土流出の状況を空より撮影して放映して現状を伝える。及びインターネットで配信等を積極的に行う。</p> <p>第6章 その他自然再生の推進に必要な事項 石西礁湖内の大型施設が取り組んでいる環境保護対策について調査が必要では？ 小浜島の「はいむるぶし」では独自にISOを取得しています。この様な各企業・団体・個人が取り入れている方策を列挙してみてもは？</p> <p>石西礁湖自然再生協議会委員名簿(P50) 4.大野寿一 については「小浜島ビーチリゾート」を退職しました。よって所属の記載の削除をご依頼致します。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>	

「石西礁湖自然再生協議会」運営事務局 行

【FAX】098-863-7672

【E-Mail】okironc@coremoc.go.jp

「意見・提案シート」

氏 名	
団体・法人等名	学振科研「沖縄のジュゴン個体群の保全生物学的研究」グループ
<p>☆ 会議に欠席する方で、議題に関して意見や提案のある方は、本シートにより、運営事務局に対して事前に意見等を提出することができます。</p> <p>詳細および全体構想(案)の中での具体的な記載箇所等については、以降のWGでご説明させて頂くとして、下記についてさらに強調・補足いただければと存じております。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. サンゴ礁生態系が、マングローブ生態系および海草生態系と共に石西礁湖一帯の亜熱帯沿岸海域生態系を構成しているという観点から、その生態系をまるごと保全するという観点</li><li>2. 陸域から海域への影響に関して、農業や土木工事等による赤土流入による海水の透明度の低下、農薬等に含まれる窒素等の流入による富栄養化に関して</li><li>3. 持続的な漁獲の維持を目標にした、海域の順応的管理</li><li>4. GIS解析およびリモートセンシングの活用</li></ol> <p>議題として話し合っていかなければならないのは：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. モニタリングをどうするか（何をモニターし、誰がどうやってやるか）、それを事業の順応管理にフィードバックするのはだれが責任を持つのか、などを決めておく必要があると思います。</li><li>2. フィードバックさせるのは科学者委員会の判断が重要です。科学者委員会の存在が必要です。事業を実際にやっている人がフィードバックすることは難しいでしょう。</li></ol>	